

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

学位申請者	後藤 郁子 【人間発達科学専攻 平成22年度生】	要 旨
論文題目	小学校初任教師の成長・発達の契機から捉えた育成論の構築 —協働学習を通じた管理職の形式的介入に視点を当てて—	<p>本論文は、エンゲストロームの拡張的学習の理論を手がかりとして、小学校初任教師の成長・発達の契機から捉えた新しい育成論の構築を目的として、四つの研究をおこなったものである。第一の研究では、初任教師は主体的な学習を通し、仲介的概念ツールを生み出し、自らの問題・課題を乗り越えていくこと、そしてこのことは初任教師と相互作用的に関わる介入者によって可能になることが明らかになった。第二の研究では、初任教師の成長・発達を阻む要因として、現行のメンター制度が初任教師を組織から孤立させてしまう危険性を孕んでいること、初任教師の「集団把握力」は養成期の段階から育成すべき課題であることが示された。第三の研究では、協働学習が、初任教師の抱えている葛藤や課題を可視化することと、同時にミドルリーダーの育成を可能にすることが明らかになった。第四の研究では、初任教師の成長・発達の萌芽期である教員養成期における現場体験の在り方を「指導の主体者としての実体験の場」に変えたインターンシップとして試行し検討した。</p> <p>以上の研究から、初任教師の主体的な成長・発達の契機の創出は、教師自身が学びの主体者になれるかにあること、そして、このことは、初任教師のみならず養成期の大学生の育成にも当てはまり、初任教師の成長・発達のためには、学生・教師・研究者がともに協働する、エンゲストロームのいう「ネットワーク」が求められていることが明らかとなった。</p>
審査委員	(主査) 教授 小玉 亮子	
	准教授 刑部 育子	
	准教授 富士原 紀絵	
	教授 内藤 俊史	
	教授 浜口 順子	